

## 1. 特に効果的であり改善に資した事例について

### A. コースワークの充実・強化

#### ①人材養成目的に沿った科目構成の整理

##### ●兵庫教育大学連合学校教育学研究科

##### 「学校教育実践学研究者・指導者の育成」の事例

(具体的に何を実施したのか)

実践的指導力を有する学校教員の養成・教育の推進を担う教員養成系大学・学部及び教職大学院の研究者・指導者を養成することを目的とし、教育実践学にかかわる基礎的・基本的な内容の修得に基づきながら共通の実践的課題を討議・検討する総合共通科目を再編し、教育実践基礎研究Ⅰ(量的及び質的教育研究法)と教育実践基礎研究Ⅱ(研究課題の探求と学生参加プロジェクトの発表によるプレゼン力の育成)として内容を一新して、従来の講義形式の授業形態からの脱却を図った。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

総合共通科目は、従来は広領域かつ学際的な教育内容を担当教員が分担して教授する形式で実施されていたが、本プログラムの実施に伴い、院生が今日の新たな教育課題を的確に把握し、課題解決の方略を主体的に追求することのできる総合的な資質・能力の育成を可能にするため、多面的な研究方法上の知識・理解、課題の探求力、研究成果の発表・発信力という一連の研究者としての基礎的なコンピテンシーの修得に焦点づけた内容となるよう配慮した。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

本プログラムの他の取り組みである学生による現代的教育課題に関する共同研究を行う「学生参加プロジェクト」とのコラボレーションが双方に相乗効果を生じさせることができた。総合共通科目における学習内容が「学生参加プロジェクト」の共同研究に反映され、「学生参加プロジェクト」の研究成果が総合共通科目で発表されることで、総合共通科目の学習にアクチュアリティを与えることともなった。

## 1. 特に効果的であり改善に資した事例について

### E. 学習・研究環境の改善

#### ②国内外の学会発表、実習等に対する経済的支援の充実

##### ●兵庫教育大学連合学校教育学研究科

##### 「学校教育実践学研究者・指導者の育成」の事例

(具体的に何を実施したのか)

国際的に通用する高い資質や能力を有する学校教育実践学研究者・指導者を育成することを目的とし、研究科学生を海外の研究機関・大学に派遣し、国際的な研究調査、学会発表などの研究交流の活性化を図る「国際インターンシップ、国際学会等派遣」事業を行った。国際インターンシップの研究調査では、アメリカ(2大学、1機関)、イギリス(3大学)、ドイツ(2大学)の計8大学(機関)とのインターンシップ協定の締結等により、平成20年度、21年度で6名の学生を派遣した。同じく、国際学会等派遣にはアメリカ、ノルウェー、リトアニア他に12名を派遣した。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

本事業を実施するために、アメリカ、イギリス及びドイツの主要大学とインターンシップ協定締結の協議を行ったが、対象大学の選定においては、教員養成教育に関する国際動向を調査・把握し、特色のある取り組みを行っている国と大学を選んだ。しかし、いずれの国も外国人学生に対する指導は綿密丁寧である反面、ドイツを除いてアメリカとイギリスは授業料(指導費用)が高額であり、また研究科院生の多くは現職の学校教員であるため長期の派遣は困難であった。そのため短期での指導計画を依頼し、また外国人研究者の招へいによる日本での研究指導の方法も模索した。それによって、派遣と国際シンポジウムの開催と併合した国内での外国人研究者による継続的院生指導が実現できた。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

本研究科は国際化を図ることを長年課題としてきたが、このプログラムによってそれを果たすことが可能となった。また、教員養成教育は他の学問分野の課題と同様、国際的にも重要課題となっており、研究者・指導者の育成はこれまで以上にグローバルな性格を有するものとなっている。本事業への着手と取り組みはこの課題を遂行するタイムリーな機会となった。また、最も重要な成果は、外国人研究者の指導を実現するとともに、国際学会への参加を奨励し、国際学会での研究発表を促進し、各院生の研究活動に国際的な広がりを与えることができたということである。